

CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会
宣教ニュース

N.139 - 2020年7月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

友人の皆さん、

私

私たちはまだにCOVID-19の影響下にあります。北半球では、7月は皆が家族や友人と夏を楽しむ時間を取り、忙しくなる月です。南半球では、学校が学年の半ばにさしかかり目まぐるしい活動を止め、休みを取る時です。熱帯の国々では、新しい学年が始まるころです。どこにいても、今年の7月は、過去に私たちが経験してきた7月とは異なるものになるに違いありません。ロックダウンが少しずつ緩和される中、政策立案者や専門家たちは、ウィルスの新たな波をいかに避けるか、議論し合っています。私たちは学校、レストラン、オフィスに戻りながら、コロナウィルスを遠ざけることができるのでしょうか？ 専門家は、今後何か月も、少なくとも部分的に人との接触を避けて生活し続けなければならないかもしれないと警告しています。私たちはこれからも友人や、場合によっては家族にも触れないよう制約を受けることになります。マスクや手の消毒液、そのほかの道具を、一人ひとりが当面のあいだ持ち歩くことになります。

多くの人はこれを、「新しい日常」と呼びます。それがいつまで続くのか誰にもはっきりわかりません。「新しい日常」はさまざまな未知の事柄に左右されます。なぜなら、私たちの知る世界が消えつつあるからです。その後には、新しい世界が待っています。その姿を、私たちは少なくとも想像することができます。実に、私たちは自問しなければなりません、そもそもなぜCOVID-19以前の世界に戻りたいと思うのか。「新しい日常」が、社会的不平等や環境破壊、経済的貪欲を後にし、より良い方へ向かう歩みになれば私は願います。私たちの「新しい日常」が、ドン・ボスコの宣教精神の深く浸透する生き方であってほしいものです：「我々はいつもこうしてきた」という自己満足の態度を捨て；私たちの宣教の目標、構造、スタイル、方法を、勇気と創意をもって見直し；仲間として共に歩み、ネットワークを築き、連携して働き、教育・司牧の識別を促進するのです（『福音の喜び』33）。宣教の熱意に燃え立つこと、それが私たちの「新しい日常」でありますように！

宣教顧問 アルフレド・マラヴィジャ神父



ドン・ルアからドン・リッチェリまで。ドン・ルアのもと、ヨーロッパと中東での拡大は続き、宣教派遣はアメリカ大陸のほとんど全土に広がりました。インド、中国に魅惑的な拠点が開設されました。後継者たちのもとで、宣教の働きは五大陸すべてで広がりました。常に教会に仕えながら、サレジオ会は教会のさまざまな管轄地を引き受けました。エクアドルのアマゾン地方で、メンデス使徒座代理区（1892）；ブラジルのアマゾン地方で、グイラティンガ（1924）、リオ・ネグロ（1925）、ポルト・ヴェリョ（1925）、ウマニタ（1949）の司教区；ベネズエラのアマゾン地方で、プエルト・アヤクチョの使徒座代理区（1964）。また、チャコ・パラグアヨの使徒座代理区（1948）、メキシコのみへ司教区（1966）。アフリカでは、ザイルのサ

カニア教区（1959）。インドでは、シロン・グワハティ大司教区（1969）、そしてクリシュナガル（1934）、ディブルガル（1951）、トゥラ（1973）、コヒマ・インパール（1973）の各教区。アジアでも、日本の大分教区（1961）、タイのスラツ・タニ教区（1969）、ビルマのラシオ使徒座知牧区（1975）。この頃の、北東インドにおける奇跡的に実り豊かなミッションに特に注目する必要があります。第二バチカン公会議後は、リッチェリ神父のもと、刷新された教会論、宣教論を通して、宣教活動の現代化が行われました。

プロジェクト・アフリカ。ヴィガノ神父のもと、第21回総会（1978）で「プロジェクト・アフリカ」が立ち上げられ、全会が関わり、また信徒宣教ボランティアも参加しました。それは第二バチカン公会議後の教会の、最も重要な宣教運動となりました。また、サレジオ会にとって新しい宣教の春が訪れました。サレジオ会はアフリカで、14か国から43か国（2020）へと拠点を広げました。活力において著しく成長し、全世界に遣わされる多くの宣教師の召命を呼び覚ましています。

今日のプロジェクト・ヨーロッパと「新たな前線／ニューフロンティア」。ドン・チャーベスは、第26回総会（2008）で新たな宣教プロジェクトを正式に立ち上げました：「プロジェクト・ヨーロッパ」です。福音宣教と新福音宣教を必要とする社会へ、世界各地の若いサレジオ会員が「すべての人へ ad gentes」と遣わされ、ドン・ボスコのカリスマの成長に貢献するため、ヨーロッパ諸管区のメンバーとなっています。今日、グローバル化した、横断的に多文化、多宗教の世界で、サレジオの使命はますます差し迫ったものになっています。「新たな前線／ニューフロンティア」は単に地理的なものにとどまらず、移住者や難民の人々の中にあるような、社会・文化の前線でもあります。



私は父ドン・ボスコの夢の一員

私

はサレジオ会員になることを考えるよりもずっと前に、宣教師になりたいという、心はやるような感覚を持っていました。しかし、その望みが絶えず変わらないものになったのは修練期のときで、すでにサレジオ会員の視点からそれを捉えるようになっていました。神が自分に求めておられると感じることについて、修練長に打ち明けました。私は同時に、あるプロセスを歩む必要があること、イエス・キリストに根ざす者になること、自分の中にあるいくつかのことから清められること、そして通常の初期養成の課程を続けることが必要だと気づきました。

とてもありがたく重要だったのは、識別の歩みを助けてくれる人々に頼れたことです。そのおかげで、神のささやく声を捉え、誠実に向き合うことができたのです。何か特別なことのために神が私の人生の扉を叩いておられると知りつつ、地に足をつけていることができました。

宣教師の召命において私が経験した挑戦は、特定のパラダイムを棄てること；遣わされたところにおられる神の新しさに心を開くこと、自分の弱さにもかかわらず、神の愛のしるし、担い手になることでした。もう一つの要素は、“第一世界”に属する国の、裏の顔に立ち向かうことでした。私は教育システムからはじき出された若者たちと出会いました。社会は一部の若者を、彼らの過去ゆえに拒絶します。若者たちは、体と魂に傷あとを残しています。彼らに賭けてみよう、もう一度チャンスを与えてみよう、誰も思いません。わずかな羊飼いたちだけがこの若者たちと共に歩もうとするのです。実に繊細でありながら、夢や達成すべき目標でいっぱい、この若者たちと。

私は召命を歩みながら、ある夢の一員であるということに気づきそのように感じる、大きな喜びを味わっています。歳月を経て実現している、私たちの父ドン・ボスコの夢です。

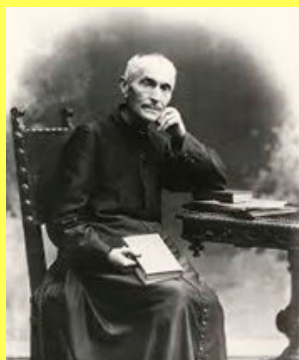
自分の宣教地に到着したとき、二つのことに感銘を受けました。それは：

1. サレジオ会員として生きる選択に満足し幸せな年配のサレジオ会員たち。最も貧しく最も助けを必要とする若者にささげた人生に心満たされた、そのような会員をしばしば目にするのです。
2. スペイン、バルセロナには、信仰を実践し生きているキリスト者が確かに多くはいません。しかしながら、キリスト者としての信仰を深く生き、サレジオのミッションに惜しみなく献身する若者、信徒、夫婦との出会いが、サレジオ会員である私に多くを教えてくれることもまた真実なのです。

神様のみ手に、自分自身を全面的に明け渡すことを、私たちは学ばなければなりません。同伴者と共に識別の過程をたどる必要があることは疑いようがありません。神が私たちの益となることの源泉であるなら、神はそれを保ってください、神のうちにそれは実を結ぶでしょう。ただ信頼し、神が求められることのために一生懸命、働きましょう。

ベネズエラ出身、スペインの宣教師 **イスラエル・エルナンデス**

福者 **ミケーレ・ルア** (1837 - 1910)、ドン・ボスコの第一代後継者。
ドン・ルアは1902年1月のボレッティーノ・サレジアーノに、コオペラ



トリーにあてて次のように書いている：

「まず初めに、このことを心にとめていただく皆さんにお願いするのが私の務めであると思います。私たちはこの一年、あらゆる場所で、私たちにゆだねられたおびたしい若者たちに、市民として、信仰者としての教育を引き続き与えることができました。人生に幸せをもたらす教育です。世界の各地に、ドン・ボスコの子らへの皆さんの愛徳による益を享受する、数十万に及ぶ子ども・若者がいます。家族と暮らしながらも、私たちの夜間学校や日曜日のオラトリオに通う子どももさえます。もし見捨てられていたなら、いずれ自分たちの周りの人々に望まれない存在になっていたかもしれない、これほど多くの若者が、今は善良で誠実な市民になるべく成長していることは、ああ、私たちにとってどれほど尊いことでしょう。神に選ばれ、この世を後にし、仲間の中で使徒になろうとする若者、あるいは自分にしてもらったことを人にしようと、サレジオ家族に加わる若者さえ多くいるのです。」

サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 **ピエルルイジ・カメローニ** 神父

アフリカの家庭のために

愛、尊敬、導きをもって、家庭と共に歩めますように。

アフリカの最も素晴らしい宝の一つは、家族が重んじられていることです。若者のために、家庭生活の豊かな伝統を保つ教育ができるよう、祈りましょう。若者たちが、福音の光の行き渡る家庭を築くことができますように。



サレジオ会の宣教の意向

